

## 介護職員養成研修課程カリキュラム表(介護職員初任者研修課程)

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	① 多様なサービスの理解	《講義内容》 ・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する。 ・介護保険外のサービスの種類と、サービスが提供される意義や目的を理解する。 《演習》 ・視聴覚教材を使用し、介護職がどのような場で利用者に対して、どのようなサービスを提供するのか、具体的なイメージをもつ。	(1)-①
	② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	《講義内容》 ・各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 ・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。 ・チームアプローチの必要性と、具体的な連携方法を理解する。 《演習》 ・利用者の立場から見た介護サービスを事例を使って、グループディスカッションを行い、様々な考え方を学ぶ。	(1)-②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	① 人権と尊厳を支える介護	《講義内容》 ・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点(ICF、QOL、ノーマライゼーション)について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。 《演習》 ・高齢者のQOL改善事例を使って、グループディスカッションを行い、様々な考え方を学ぶ。 《通信課題》 ・尊厳とは何か、QOL・ノーマライゼーションの考え方の理解、高齢者虐待防止について理解する	(2)-①
	② 自立に向けた介護	《通信課題》 ・介護保険制度下における自立に向けた介護の重要性と意義、介護予防や重度化予防の視点・必要性、介護予防のあり方について理解する	(2)-②
(3)介護の基本 (6時間)	① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	《通信課題》 ・福祉に係る職種や地域包括ケアシステムについて理解する。	(3)-①
	② 介護職の職業倫理	《講義内容》 ・介護職が持つべき職業倫理を学ぶ。 ・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。 《演習》 ・倫理問題を事例紹介を通じて、グループディスカッションで意見交換を行い、倫理的問題に気付くようにする。 《通信課題》 ・介護福祉士の倫理綱領について理解する。	(3)-②
	③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	《講義内容》 ・利用者の生活を守る技術として(事故予防・安全対策・感染対策)のリスクマネジメントの視点を学ぶ。 ・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。 《演習》 ・自分自身の「ヒヤリ・ハット」体験(介護以外)を発表し、グループごとに原因・対策をディスカッションし、身近に感じ出来るようにする。 《通信課題》 ・介護における安全を確保するための事故への備え、感染症の予防と対策、事故対応の原則について理解する。	(3)-③
	④ 介護職の安全	《通信課題》 ・介護職の心身の健康、安全の確保について理解する。	(3)-④
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	① 介護保険制度	《講義内容》 ・介護保険制度創設の背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。 《演習》 ・介護報酬についてケーススタディで具体的に試算してみる。 《通信課題》 ・介護保険制度創設の背景、介護保険制度の仕組みについて理解する。	(4)-①
	② 医療との連携とリハビリテーション	《通信課題》 ・介護職員が行える医行為、リハビリテーションの理念について理解する。	(4)-②

	③ 障害者福祉制度 およびその他制度	《通信課題》 ・障害の概念、障害者福祉制度の理念を理解する。 ・障害者自立支援制度の仕組みやサービス利用の流れを理解する。 ・成年後見制度、日常生活自立支援事業等について理解する。	(4)－③
(5)介護における コミュニケーション技術 (6時間)	① 介護におけるコ ミュニケーション	《講義内容》 ・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 《演習》 ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。 《通信課題》 ・非言語コミュニケーションの理解のほか、能力の異なる利用者別のコミュニケーション方法と留意点について理解する。	(5)－①
	② 介護におけるチ ームのコミュニケー ション	《講義内容》 ・記録による情報の共有化の意義と目的を理解する。 ・記録の種類や書き方の技法について理解する。 《演習》 ・不十分な介護記録の事例を通して、表現方法の実際を理解する。 《通信課題》 ・介護現場における記録の目的と意識を理解し、記録の重要性・種類を理解する。 ・チームケアの必要性やカンファレンスの重要性を理解する。	(5)－②
(6)老化の理解 (6時間)	① 老化に伴うこ とからだの変化と 日常	《講義内容》 ・老化についての考え方や学説について理解する。 ・老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。 《演習》 ・老化の観察ポイントについて、現時点でグループディスカッションを行い、どれだけ気付くかを出し合う(学習前) 《通信課題》 ・老化に伴う心身の変化の特徴を理解する。	(6)－①
	② 高齢者と健康	《通信課題》 ・高齢者に多い疾患や生活習慣病、老化に伴う疾患を理解する。	(6)－②
(7)認知症の理 解 (6時間)	① 認知症を取り巻 く状況	《通信課題》 ・認知症の人との関わりについて理解する。	(7)－①
	② 医学的側面から 見た認知症の基 礎と健康管理	《通信課題》 ・認知症の症状、認知症の人の健康管理について理解する。	(7)－②
	③ 認知症に伴うこ とからだの変化 と日常生活	《講義内容》 ・認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。 《演習》 ・事例を通して、症状が出た時の本人の気持ちを考察しながらグループディスカッションを行う。	(7)－③
	④ 家族への支援	《講義内容》 ・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。	(7)－④
(8)障害の理解 (3時間)	① 障害の基礎的理 解	《通信課題》 ・「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 ・ICF(国際生活機能分類)に基づきながら「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念(ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン)について理解する。	(8)－①
	② 障害の医学的側面、 生活障害、心理・行 動の特徴、かかわり 支援等の基礎的知 識	《講義内容》 ・障害の原因となる主な疾患を理解し、伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 《演習》 ・障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。	(8)－②
	③ 家族の心理、かか わり支援の理解	《通信課題》 ・障害児・者を支える家族の心理や障害受容の過程、家族とのかかわり支援について理解する。	(8)－③

(9)こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習(10~13時間)】		
	① 介護の基本的な考え方	《通信課題》 ・法的根拠に基づく介護、医療サービスと介護サービスの役割の違い、利用者主体の介護について理解する。	(9)-①
	② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	《通信課題》 ・老年期の生きがいや喪失体験・人間関係・社会的役割、障害への心理的反応について理解する。	(9)-②
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	《講義内容》 ・生命の維持・恒常のしくみを理解する。 ・骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する。 ・神経の種類と、そのはたらきを理解する。 ・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する。 《演習》 ・「こころとからだ」のバランスをいかに取っていくかについてグループディスカッションを行う。 《通信課題》 ・基本的人体の構造と機能、バイタルサインについて理解する。	(9)-③
	【イ 生活支援技術の講義・演習(50~55時間)】		
	⑤ 生活と家事	《講義内容》 ・生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。 ・家事援助(調理、洗濯、掃除などの援助)は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。 ・家事援助とは何かについて具体的に理解する。 《演習》 ・具体的な生活援助の方法について、グループディスカッションを行い、利用者にとって求められるサービスは何かをグループで発表し、意見を交わす。 ・グループごとに限られた食材で高齢者向けのレシピを検討、発表して意見を交換する。 《通信課題》 ・生活歴・生活習慣・残存能力・なじみの関係を使った、生活の再構築を行う家事サービス提供について理解する。 ・代表的な家事援助について具体的内容を理解する。	(9)-④
	⑥ 快適な居住環境整備と介護	《講義内容》 ・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。 ・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。 ・高齢者や障害のある人が生活をするなかで、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。 《演習》 ・身の周りのバリアフリーや手すり等について建物内外や周辺を観察し、実際にどういう形で取り入れられているかをグループディスカッションにて討議する。 ・様々な福祉用具を実際に使用して、体感する。 《通信課題》 ・快適な居住環境、寝たきりや認知症高齢者に適した環境について理解する。 ・住居の安全と事故防止に向けた環境整備について理解する。	(9)-⑤
	⑦ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	《講義内容》 ・整容の必要性と、整容に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける。 《演習》 ・衣服の着脱について実際に演習を行い、良かった点、改善すべき点についてグループディスカッションを行う。 ・洗面の方法や口腔ケア(歯磨きの実技)について、講師の模範演技を参考に受講生自身が体験して正しい方法を習得する。	(9)-⑥
	⑧ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	《講義内容》 ・移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。 ・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。 《演習》 ・ベッド上での体位交換、起居動作、ポータブルトイレや車椅子への移乗方法等の演習を行う。 ・車椅子や歩行器を使って実際の移乗の介護、移動の介護について演習を行い、受講生自身が実体験をする。更に、アイマスクをつけて同様の演習を行い、視覚障害者の立場を実体験する。	(9)-⑦
⑨ 食事に関連したこころとからだのしくみ	《講義内容》 ・食事の必要性と、食事に関連するこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける。	(9)-⑧	

	みと自立に向けた介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。</li> <li>《演習》</li> <li>・食器等を使い、利用者と介助者の役割演技で高齢者の食事介助方法や留意点について学び、実技演習を行う。</li> <li>・介護食材やトロミ食材を使って実際に作り、試食してみる。</li> </ul>	
	⑩ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>《講義内容》</li> <li>・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関するところとからだのしくみを理解する。</li> <li>・利用者本人の力を活用し、楽しい入浴の介護を行うための技術を身につける。</li> <li>・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。</li> <li>《演習》</li> <li>・家庭用の浴槽（簡易浴槽）で、入浴介助の手順や関連福祉用具の使用方法を学び、利用者が安心して楽しく入浴できるようにするにはどのような点に注意して介助を行ったらいいかをグループでディスカッションし「尊厳・自立支援・自己実現」について討議する。</li> <li>・全身清拭、洗髪方法等についても実技で演習を行う。</li> </ul>	(9)-⑨
	⑪ 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>《講義内容》</li> <li>・排泄の必要性と、排泄に関連するところとからだのしくみを理解する。</li> <li>・利用者本人の力を活用し、気持ちの良い排泄の介護を行うための技術を身につける。</li> <li>・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。</li> <li>《演習》</li> <li>・事前に受講生に紙おむつを配布し、排泄の実体験をさせ、レポートを提出させる。</li> <li>・おむつ交換やポータブルトイレの介助、差し込み便器や尿器の使用方法等について演習を行う。</li> </ul>	(9)-⑩
	⑫ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>《講義内容》</li> <li>・睡眠の必要性と、睡眠に関連するところとからだのしくみを理解する。</li> <li>・心地よい睡眠を支援するための知識と技術を身につける。</li> <li>・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。</li> <li>《演習》</li> <li>・睡眠用具の紹介、ベッドの構造・機能・操作方法を学ぶ。</li> <li>・ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵等の使用方法を学び、習得する。</li> <li>・ベッドメイキングの方法をしっかり身につける。</li> </ul>	(9)-⑪
	⑬ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>《講義内容》</li> <li>・終末期のとらえ方を学ぶ。</li> <li>・終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。</li> <li>・死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。</li> <li>《演習》</li> <li>・視聴覚教材を用いて介護職の出来ることをグループディスカッションにて討議する。</li> </ul>	(9)-⑫
<b>【ウ 生活支援技術演習（10～12時間）】</b>			
	⑭ 介護過程の基礎的理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>《講義内容》</li> <li>・介護過程の基本的な理解から必要性を学ぶ。</li> <li>・介護事例を通じて、全体の構成・流れ等を理解する。</li> <li>《演習》</li> <li>・実際に個別援助計画を作成し、介護全体の構成・流れ等をディスカッションする。</li> </ul>	(9)-⑬
	⑮ 総合生活支援技術演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>《講義内容》</li> <li>・事例による展開（生活場面、障害状況の異なる 2 人の事例を通し、具体的な介護の内容や留意点を学びながら展開していく。</li> <li>《演習》</li> <li>・事例の展開の中で、具体的な場面を設定し、どんな介護が必要で、留意点は何かをグループディスカッションする。食事介助や車椅子介助については実際にグループに分かれて介護を行い、気付いた点を話し合って介護技術も身につける。</li> </ul>	(9)-⑭
(10)振り返り (4時間)	① 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>《演習》</li> <li>・初任者研修を通じて学んだこと、今後も継続して学んでいきたい事について各自が発表し、グループディスカッションを行う。その際、理解不十分な点や確認したい点などを洗い出し、しっかり理解できるように復習する。</li> </ul>	(10)-①
	② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>《講義内容》</li> <li>・介護の仕事の「現場の状況（介護施設、デイサービス、訪問介護）について、講師の体験談を含め、広く理解する。</li> <li>・今後の将来の方向について各自が方向性を考える。その際、キャリアパス制度等を説明し、介護の仕事における将来像をイメージしてもらう。</li> <li>《演習》</li> <li>・介護現場のDVD（視聴覚教材）を鑑賞し、グループディスカッションを行う。</li> </ul>	(10)-②

※1 実施計画欄に、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※2 実習を実施するにあたっては、本要綱「14 実習」の内容に留意すること。